(「釜石ヒカリフーズ」を背景に)

年次報告書

一般財団法人　東北共益投資基金

2014 年度

(2013 年 10 月～2014 年 9 月期)

2014 年 12 月発行

”共益性重視の資金支援”を継続

甚大な被害を出した大震災からの、経済復興を実現するこれまでにない枠組みが必要、との確信から、震災 3 ヶ月後に準備室を立ち上げ、現地の調査を重ね、地域金融との協議や、投資先候補事業者との議論を経て、第一号案件とともに、2011 年 11 月に法人を創設し支援を開始、現在まで 3 年間支援を継続しております。

■「共益投資」という概念の展開

私たちは、復旧を超えた新たな経済モデルの創生を目指して、「共益投資」の概念を生み出し、事業者への支援活動を継続しています。雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金だけではなく、経営支援や販路拡大支援をフルサポートしています。またこの共益投資の考え方は東北震災復興支援のみならず全国、様々なターゲットに広がりを見せているものと考えております。

■二度の資金循環

また資金支援のスタートから 5 年後をめどに、支援した部分の資金を地域の主要事業者や金融機関にバトンタッチしていき、その償還した資金で、社会復興支援活動をする NPO に助成をする、という二度の資金循環を目指しています。そのために、今から資本を引き受けることができる事業者等のプラットフォームの構築を目指しております。

■息の長い復興への伴走支援

かつてないこの金融の仕組みをスタートさせて皆様のご支援をいただき，はや 3 年が経過しました。今後はさらに地域の復興支援を越えた「共益経済」の輪を広げていく構想です。各種機関とも引き続き連携して、投資先の持続的成長を可能にする経営支援をしていきます。復旧から新たな復興のフェーズに入った東北の支援はまだまだ続きます。

一般財団法人
東北共益投資基金

○2014 年度　活動実績

＜2014 年　新規投資先案件と金額＞

	1,000　万円
オンザロード	1,000　万円

○これまでの　活動実績

＜2011～2013 年
既投資先案件と投資金額＞

	11 案件　12,400　万円
雄勝硯生産販売協同組合	3,000　万円
佐藤造船所	2,000　万円
及川電機	1,800　万円
ピースネイチャーラボ	500　万円
釜石ヒカリフーズ	1,300　万円
トラスト	1,000　万円
三陸いりや水産	1,000　万円
女川町宿泊村協同組合	500　万円
onagawa factory	500　万円
TATAKIAGE Japan	500　万円
被災事業所復興支援室	300　万円

○これまでの投資実績・効果について

【今年度の活動】

本年度も、引き続き、雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金と経営支援や販路拡大支援をフルサポートし、支援活動の継続をしてまいりました。また、事業拡大の可能性を上げ、人そのもののスキル向上にも寄与することを目的とした新規案件を1件実行し、次年度も引き続き資金支援を検討してまいります。

具体的には以下の通りです。

○新規マーケット創出案件への資金支援

⇒「NPO法人　オンザロード」の新規事業である、石巻市の魅力を体験・発信できる復興複合施設建設資金として1000 万円支援実行（近畿大学等との共同プロジェクトとして事業運営）

○既存 11 案件のバリューアップ継続

○社会的投資管理指標（KPI）を共有しての管理開始

⇒既存案件は再生途上のものが多く、投資効果判定を検討中

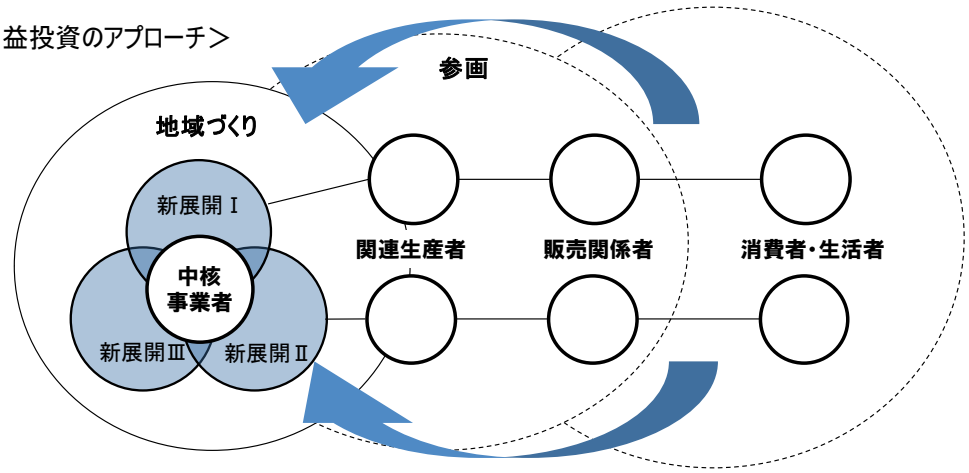
○既存支援先からの一部償還実行企図

⇒1 件検討するも、実行は来年度以降になる予定

【共益投資とは】

単なる復旧を超えた、新たな地場産業を生み出す意思と可能性のある事業体への投資概念です。投資先の事業創生が、連携する事業者や取引先へ経済効果を生み、新たな産業生態系を生み出すことを目指しています。政府や地元金融機関が支援しにくい案件でも、地域経済を構築する波及効果のある案件には、ノウハウ・ハンズオン支援とセットで積極的に応援しています。

＜共益投資のアプローチ＞



【当基金の支援選定基準】

1. 次世代：地域の若手経営者を中心とした企業や新規事業、あるいは若者を事業の中心に据えていく事業展開
2. 共益性：つながりの創出（サプライチェーン、バリューチェーン、コミュニティなど）
3. 新展開：付加価値の創出（事業モデル、地場産業、雇用拡大など）

○今後の方針　検討中案件について

【目的・目指すゴールと現状】

基金のスタートから数年間はいただいた寄付を原資として、被災地域における事業再生および起業に資金支援および、人的なサポートを実施継続してまいります（当初想定は 2016 年度までをめど）。

その後、事業毎に収支改善が見え、償還が可能となった段階で、可能な限り当初の資金支援分までの償還を受け、最終的には経営陣および地元資本にエグジットすることで、当該事業者が地元資本の地元の人が運営する会社として持続していくことを目指しております。償還の最大期間は 10 年を想定しており、その期間中に償還をうけ、償還資金はその時点で社会的な事業を継続されている NPO 団体等に寄付する（2 度の資金循環）ことを実現することも当基金の目的としております。現在は、投資および事業サポートの実施継続期間で、償還は来年度から一部実行されることを目指しております。

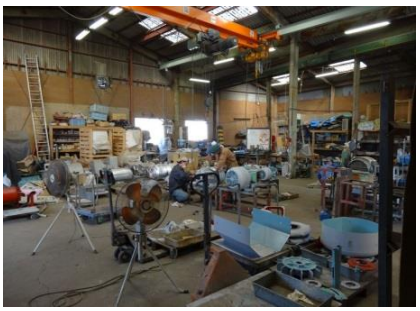
【今後の課題】

東北においては、震災から 3 年を経過した時点において、社会の関心が低下している傾向にあります。また現地の声として、活動していた NPO 等の団体が東北から引き上げる事例もでてきている中、復興途上である現地に人と関心をどれだけつなぎとめていくかが今後の大きな課題としてあげられます。基金としては、アドバイザーの関与を継続させる等問題の改善を目指します。

また、基金の支援する各案件についても、決算書等の数値を確認するところ、震災前の数値まで依然として改善できていないところもあり、復興は道半ばであるのが現状です。単純な KPI 管理ではない支援および、投資効果の検証を現在検討しているところです。

【今後の計画】

引き続き、資金支援を継続し、またアドバイザー等を担当としてつけることで、再生および新規事業開始に関しての実効性を高めるサポートを継続してまいります。投資後の各案件のバリューアップも継続して支援し、案件に共益性が顕現可能となるようサポートしてまいります。また既存案件からの一部償還を開始し、新しいモデルとしての基金の一つの使命と考えている「2 度の資金循環」を実現させていく予定です。震災後 3 年を経たこのタイミングで現状までの投資効果を判定し、新モデルの実効性を検証したうえで、可能であれば共益基金モデルの横展開を進めていくことも検討しています。



○基金のこれまでの取組み

～2011 年～

11 月　一般財団法人 東北共益投資基金設立

12 月　一号案件「雄勝硯生産販売協同組合」発表

～2012 年～

1 月　二号案件「佐藤造船所」発表

2 月　「ユニクロ 復興応援プロジェクト」
協働パートナー決定

3 月　三号案件「及川電機」発表

4 月　復興起業キャピタル発表

5 月　四号案件 （復興起業キャピタル一号案件）
「ピースネイチャーラボ」発表

6 月　復興金融円卓会議準備会、
共益投資サロン第一回開催

7 月　「三陸リアス復興資本」の環発表＆
五号案件（三陸リアス復興資本一号案件）
「釜石ヒカリフーズ」発表

10 月　六号案件「トラスト」発表

11 月　七号案件「三陸いりや水産」発表

12 月　八号案件「女川町宿泊村協同組合」発表

～2013 年～

1 月　九号案件 （復興起業キャピタル二号案件）
「株式会社 onagawa factory」発表

6 月　十号案件「NPO 法人 TATAKIAGE Japan」発表

7 月　十一号案件 （復興起業キャピタル三号案件）
「被災事業所復興支援室」発表

～2014 年～

10 月　一二号案件「オン・ザ・ロード」発表

投資先地域

○各支援先の状況報告

【新規案件】

オン・ザ・ロード　（宮城県石巻市）

～「観光」「産業」「教育」の効果促進を目指す復興複合施設を建設～

概要
代表者：　髙橋　歩　（代表理事）
業　　種：　ゲストハウス・コミュニティスペース運営
支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　1000 万円
サイト：　https://otr.or.jp/

オン・ザ・ロードは、基金による 1000 万円の支援を基に、震災当初より活動拠点としていた渡波地区で、理念に共感した地元の土地提供者をパートナーとし近畿大学からの支援も得て、新しい施設「ロングビーチハウス」を建設します。地区の方と持続可能な復興のシンボルとなるように協働運営していきます。復興のために石巻に必要なことは「人々が住みたくなる、遊びにいきたくなる街づくり」と、それによる交流人口の増加と雇用の創造と考えています。新施設内には、地域交流を促進するためのコミュニティスペース、レストラン、宿泊施設も併設するなど複合的な機能を備え、また漁業・ダイビング体験や、農林体験などのプログラムも実施予定です。2015 年 3 月開業に向けてただいま準備を進めています。

代表理事・髙橋歩氏　ひとこと

お陰様で竣工まで順調に進んでいます。真の意味での復興へ向けさらに邁進して参りますので、引き続き応援を宜しくお願い申し上げます。

【既存案件】

第 1 号案件

雄勝硯協同組合　（宮城県石巻市）

～伝統工芸品の雄勝硯を製作する待望の仮設工房と倉庫完成～

概要
代表者：　澤村　文雄（理事長）
業　　種：　工芸品製作
支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　3,000 万円
サイト：　http://www.ogatsu-suzuri.jp/

現在の雄勝町は、震災か 3 年以上が経過したものの、復興への道のりはまだまだ遠いものであることを痛感させられる景色がいまだ広がっています。

雄勝硯組合は行政の支援のもと念願の生産設備・倉庫の増強が実現しました。ちなみにそれらの建物は「店こや（たなこや）街（仮設商店群）」と並び、雄勝町中心部を象るものとなっています。

14 年 5 月より新たな生産体制にて稼働をはじめ、いよいよ本格的な販売活動推進を必要とする局面を迎えています。当初立案の戦略通り、硯以外の商材（皿、工芸品など）を収益の柱とするべく、ギフトショーなどの展示会への出展も積極的に進めていますが、苦戦している現状です。

一方で、現状マンパワーで食器・工芸品の類については賄えるものの、職人後継者の問題は依然大きく、現在早急なる若手育成に努めています。

理事長・澤村文雄氏　ひとこと

お蔭様でなんとか生産体制は「復旧」といえるまでにこぎつけました。しかしここからが本番、しっかり販売を進めなくてはなりません。引き続き、雄勝硯組合製品をよろしくお願いいたします。

第 2 号案件

佐 藤 造 船 所　（宮城県石巻市）

～国の補助金交付を受け被災 2 造船で合同会社化への動き～

概要

代表者：佐藤　文彦 （代表取締役）
業　種：特殊船舶の修理・整備
支援策：資金　　投資額：2000 万円

お陰様で多くの皆様にお力を貸して頂きながら 2014 年 2 月 10 日に国交省の造船関連補助金の内示を頂き、経産省のグループ補助金と合わせながら、施設設備の早期復旧に向け事業計画の遂行実現に向け最善を尽くして参りましたが、まだ着工には至っておりません。

これまで、当所敷地に係わる防潮堤設置の線引きの変更と、上下架設備設置に係わる許認可の問題等もあり、事業計画の大幅な変更を余儀なくされましたが、関係する多くの方々のお力添えにより、新たな計画案で認可を頂くことができ、今日を迎えております。
10 月 30 日には関係行政と防潮堤による当所敷地内の収用等に係わる一回目の協議が行われました。今後の事業運営並びに地域の安全性に直接影響する事なので、より当所事業の目的を踏まえていただきながら合意に向け協議していきたいと思います。

代表取締役・佐藤文彦氏　ひとこと

大変お世話になっております。
震災から3年半が過ぎた中、今日まで多大なお力添えを頂いておりますこと、心から感謝申し上げます。今後共どうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございます。

第 3 号案件

及川電機　（宮城県石巻市）

～佐藤造船と合同会社建設による更なる売上向上を目指す～

概要

代表者：及川　幸八（代表取締役）
業　種：船舶電気機器・艤装
支援策：資金＋アドバイザー派遣　　投資額：1800 万円

弊社では現在、佐藤造船所様との合同会社事業として進行中の船舶電装修理工場建設が、事務所棟は完成し、本体である工場棟も 2015 年 1 月には完成する見込みとなっております。

地元造船所の修繕部門再開に伴う船舶電装修理の受注も増加しており、地元水産業を支える企業として今後ますますの充実を図って参りたいと考えております。

また、これまで同様、地元の工場や水産加工場の電動機、電機設備の修理保全などを通して復興のお手伝いをさせていただいておりますが、震災復興での交流により、採石場現場や漁港の製氷機などこれまで関わったことのない現場や設備の仕事にも携わるようになったことで、新しい知識や技術の習得が課題となっております。

専務取締役・及川雅貴氏　ひとこと

震災復興の中にあって、新しい体験や挑戦の機会をいただけたと感謝しております。ご支援ありがとうございます。

第 4 号案件

トラスト　（宮城県亘理郡）

～独自の技術を活かして事業の再興と雇用を拡大～

概要

代表者：　丸子　孝市（代表取締役）
業　種：　電子回路基板製造業
支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　1000　万円

株式会社トラストは、宮城県亘理郡においてプリント基板製造装置の中古機械販売・保守を手がけてきた企業です。大手メーカーから認証を受ける程の高い技術力に特徴があります。震災による津波により工場が被災、機械設備や在庫が多大な被害を受けました。再起にむけて働く従業員の姿を見て、丸子社長が一念発起し事業を再開、製造装置販売事業で培ったノウハウをもとにプリント基板の実装事業もスタートしました。新工場においては、周辺の電子部品手組み事業者も当社敷地内に移転し、少量多品種で小回りのきく受託生産事業として展開をはかっています。両事業のシナジーにより取引先が広がるとともに、震災前 11 名であった従業員も 30 名となり、地元の雇用に貢献しています。

代表取締役・丸子孝市氏　ひとこと

プリント基板の製造装置販売・保守事業と新事業である実装事業とのシナジーによって、取引先も広がってきました。事業の発展を通じて、地元の雇用の受け皿としても貢献していきたいと思います

第 5 号案件

女川宿泊村旅館組合　（宮城県牡鹿郡女川町）

～トレーラーハウス宿泊施設による復旧を超えた観光誘致～

概要

代表者：　佐々木　里子　（理事長）
業　種：　宿泊施設運営
支援策：　資金　　投資額：　500 万円
サイト：　http://elfaro365.com/

東北・宮城にある小さな港町、女川町。大津波により町の 8 割近くが壊滅的な状況に追い込まれましたが、全国、全世界の皆さまのご支援のもと、日々復興の道を歩んでおります。ありがとうございます。

トレーラーハウス 40 棟で宿泊施設を運営してまもなく 2 年。被災地を訪れてくださるたくさんの団体様やリピーター様が増え、震災から 3 年半以上過ぎてもなお、被災地に関心を持ち続けるエネルギーに感謝申し上げます。

今後も女川だけでなく被災地の灯台「エルファロ」になれる様、頑張ってまいりたいと思っております。

理事長・佐々木里子氏　ひとこと

『復興する女川町の灯台』となるべく頑張っております。ご支援ありがとうございます。

第 6 号案件

釜石ヒカリフーズ　（岩手県釜石市）

～地域密着型の水産加工の工業で地域の雇用を維持～

概要

代表者：　佐藤　正一（代表取締役）

業　種：　水産加工業

支援策：　出資＋アドバイザー派遣　　投資額：　1300 万円

釜石ヒカリフーズ株式会社は、大手水産会社に勤務していた佐藤社長が、震災後岩手県釜石市唐丹地区の漁協との協力のもと起業した水産加工業です。タコ、イカ、鮭、ほたて、わかめ、鯖など地元で水揚げされる海産物が仕入の 7 割を占めています。最新の冷凍設備による鮮度管理や高い加工技術が評価され、大手外食チェーンでのグランドメニュー化、給食産業への供給など、20 社を超える取引先を抱えるようになりました。JST、岩手県水産技術センター、高知工科大学、岩手大学などとの連携により冷蔵技術の開発にも力を入れています。

当社の従業員 25 名は原則すべて正社員であり、従業員ごとのきめ細やかな時間シフトを導入することで子育て世代の女性にも働きやすい職場として人材を確保し、昨年より地元高校から新卒の採用も始めました。

代表取締役・佐藤正一氏　ひとこと

事業の発展を通じて、地域の漁業者と水産加工業者が互いに発展する良好な関係を築くとともに、地元の雇用の受け皿として次世代を担う人材を育成していきたいと思います。

第 7 号案件

三陸いりや水産　（岩手県釜石市）

～地域資源の活用と地元発の新ブランド創生へ準備～

概要

代表者：　宮崎　洋之　（代表取締役）

業　種：　水産加工業

支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　1000 万円

サイト：　http://www.sanriku-ilya.jp/

三陸いりや水産株式会社は、ソムリエとシェフの資格をもち、外食企業の欧州事業責任者であった宮崎社長が、震災後岩手県釜石市で起業した水産加工業です。三陸産の鮭を使った加工食品・健康食品原料を供給するとともに、地元の酒造業者との連携による「イカの塩辛」「鮭氷頭」、市場価値の低い地魚と花巻ワイナリーのぶどう搾りかすを活用した「三陸ブイヤベース」など独自の商品開発力に特徴があります。中でも、海鮮中華まんじゅう「海まん」は、地元の一次産業者、醸造・酒造・製菓などの地元の二次産業者との協力のもとに開発中であり、地元発の新ブランドとして期待されています。　新工場建設に向けて準備を進めており、一層の生産体制の充実をはかる計画です。

代表取締役・宮崎洋之氏　ひとこと

「ブランドづくりはまちづくり」との想いで復興に携わる喜びを感じて頑張っております。ご支援ありがとうございます！！

第 8 号案件

ピースネイチャーラボ　（岩手県気仙沼市）

～自然と調和する水産加工業を目指し新商品を開発～

概要

代表者：　畠山　信（代表理事）

業　　種：　水産加工業

支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　500 万円

サイト：　http://www.morisatoumi.jp/pnl/

事業開始から、様々な壁に悩まされ続けておりますが、多くを学びながら一つずつその壁を乗り越えて続ける日々を送っております。現在は新たに仲間も加わり、お洒落で美味しい食品づくりとして「燻製牡蠣のオリーブオイル漬け」や「焼き菓子（森のクッティー）」など、森と海とが味わえる新商品の開発を続けています。また、豊かな自然の中へと誘う入り口として、海辺のカフェの建設を始めました。人と自然との距離感が遠のく今日、身構えずに気軽に訪れて頂けるような空間を提供したい。より深く自然と付き合いたい方にも、自然を薄味で楽しみたい方にも心地よいと感じて頂ける環境の構築を目指しております。

代表理事・畠山信氏　ひとこと

自信を持って「復興しました！」と言える日が来ることを信じて、今後もスタッフ一同尽力して参ります！！

第 9 号案件

オナガワファクトリー　（宮城県牡鹿郡女川町）

～新たな手工芸品開発や販路拡大を目指す～

概要

代表者：　湯浅　輝樹　（代表取締役）

業　　種：　工芸品開発・販売

支援策：　資金＋アドバイザー派遣　　投資額：　500 万円

サイト：　http://ameblo.jp/small-rebuild-project/

震災から 3 年半以上経ったいま、被災地が置かれている状況は日に日に悪化しており、震災の風化との戦いが続いております。その様な背景下、我々ももちろんの事煽りを受けているのは事実であり、支援としての需要の落ち込みにより売上が大きく減少しているのは否めない状況であります。しかしながら、東北共益投資基金から投資して頂いた資金を基に導入したレーザー彫刻機などの機材をうまく活用し、企業ノベルティの開発やプロ野球選手の折れたバットを再利用して製作した商品が生まれるなど、支援とは違った形のプロダクトが生まれ始めております。また、デザイナーからの協力を得て新たな商品開発も進んでおり、より多角的な商品構成を生み出すことで、新たな産業としての確立に向けて日々前進しております。

代表取締役・湯浅輝樹氏　ひとこと

幅広い商品構成を生み出すことで新たな産業の確立を目指します！ご支援いただき、本当にありがとうございます！

第 10 号案件

TATAKIAGE Japan （福島県いわき市）

～息の長い活動を通した起業家支援を目指して～

概要

代表者： 鈴木 賢治、松本 丈 （代表理事）

業 種： 起業家育成、コワーキングスペース運営

支援策： 資金＋アドバイザー派遣 投資額： 500 万円

サイト： http://www.tatakiage.jp/

当団体は、いわき市の次世代を担うプレーヤー、そして世界に価値を提供できるリーダーを育成するために 2013 年 2 月に設立し、同年 7 月には、東北共益投資基金のご支援によってコワーキングスペースをつくることが出来ました。本当に感謝しております。設立当初は、今の福島では場所とサポートさえあれば、課題解決のための起業家がすぐにでも増やせるのではないかという思いでおりましたが、1 年の活動を通して感じているのは、息の長い活動を通して地道に地域の人材育成と向き合う必要があるということです。今年度は、未来の起業家候補である地域の中高生が「地域のために何かしたい！」と活動するプロジェクトのサポートを大人を巻き込み実施することで、5～10 年後に実際に事業を興す起業家を生む種まきをし、サポート側の大人のコミュニティを構築しようと試みています。そこから創発やイノベーション、行動する大人のプレーヤーを生み出すことも狙っています。また、いわき市教育委員会との協働で行った「いわき志塾」や、慶応大学の学生団体との「FROM PROJECT」の 2 つの企画を実施しました。他に、団体理事長の松本も審査委員として参画する「いわきビジネスプランコンテスト」へ東北共益投資基金でも基金賞を準備して頂き、起業家へのモチベーションづくりに貢献して頂いていることも大変感謝しております。

理事長・松本丈氏 ひとこと

少しずつですが、団体の活動を通して確実にいわきに変化が起きていると感じております。今後ともよろしくお願いします！

第 11 号案件

被災事業所復興支援室 （宮城県石巻市）

～太陽光発電事業での売上を活用し新たな制度を立ち上げ～

概要

代表者： 古藤野 智 （代表理事）

業 種： 太陽光発電事業

支援策： 資金＋アドバイザー派遣 投資額： 300 万円

弊社は東北共益投資基金様の支援を基に、東日本大震災で被災、再建した事業所 4 社共同で太陽光発電事業を行っております（再生の街プロジェクト）。4 社合計で 40kw のパネルを事業所の屋根に設置し発電した電気を東北電力様に全量売電しています。福島原発の事故を受け、被災地で少しでも再生可能エネルギーを普及させたい思いと、その収益を社会に還元したいという目的で始めました。開始後約 1 年半を経過しましたが、発電量は予定通り推移しており累計で 270 万円ほどの売り上げを上げています。このほどこの資金を活用し被災地のジュニアチャレンジ支援金制度を立ち上げることになりました。全国や国際レベルの大会に出場するジュニアのスポーツ選手や芸術家に対し支援金でサポートする制度です。第一号の支援者には石巻市住吉中学校 2 年の平塚歩夢さんが決まりました。平塚さんはジュニアゴルファーとして 11 月のエリエールレディースオープン、12 月にはIMGAジュニアワールドマッチプレーに出場する予定です。今後も被災地のジュニアのチャレンジを応援していきたいと思います。

代表理事・古藤野智氏 ひとこと

東北共益基金様からの支援が再生の街プロジェクトで育ち、被災地に還元されることをうれしく思います。長期に渡って地域に貢献できるよう頑張ります。

○2014 年度　収支報告、助成金内容

東北共益投資基金の収支報告をします。経理処理は、外部税理士によって行われ、その正確性、公正性については、理事会および評議員会、監事によって確認をされています。ご不明な点がありましたら、事務局までお問い合わせください。

区分・項目			2014 年度実績
人件費			431
	事務局の運営に対応する人件費		239
	支援案件の各種業務に対応する人件費		192
旅費（一般勘定）			3
広報活動・WEB 管理費			2
事務所費および投資業務推進費			124
	事務所費	通信費・備品費、水道光熱費等	90
	投資業務推進費	投資業務推進に係わる旅費・会議費	34
バリューアップ支援費		外部専門家による調査や各種支援の委託費・	137
合計			697

（単位：万円）

東北共益投資基金に対して、設立当初より合計 500 万円以上のご寄付をいただいた法人・個人は、以下の通りです。ご支援、誠にありがとうございます。

2011 年からの合計額

・公益社団法人 Civic Force： 1 億 2,800 万円

・九州郵便局長協会： 3,000 万円

・株式会社 ユニクロ： 6,220 万円 （ユニクロ復興応援プロジェクトより）

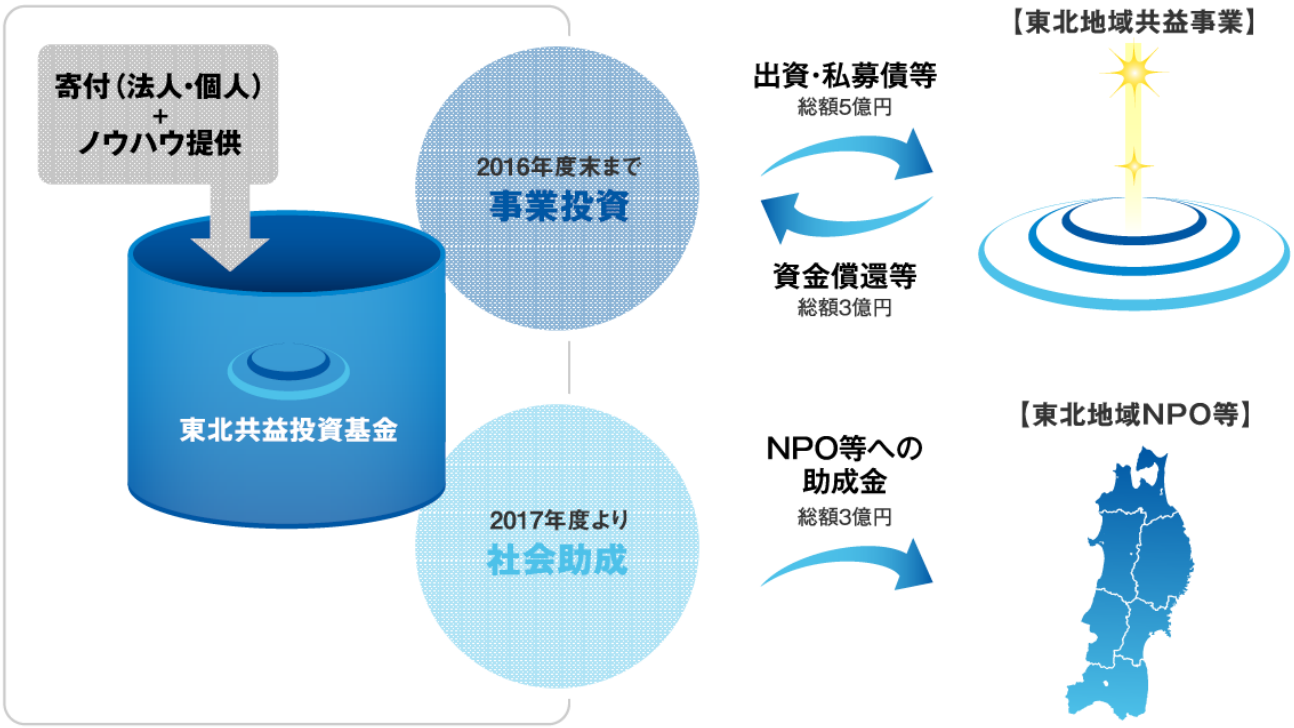
【一般財団法人　東北共益投資基金】
所在地　東京都千代田区九段南 4－7－16　市ヶ谷 KT ビル 8 階
問合わせ　TEL：03－5275－3155　、　e-mail：info@kyoueki.jp
基金ホームページ　http://kyoueki.jp/

＜参考＞東北共益投資基金のご紹介

被災地の中小の事業者の再起においては、金融機関や行政の資金供給だけでは十分に応えきれない現実があります。サプライチェーンやバリューチェーンが大きな打撃を受ける中、旧来の産業の単なる復旧を超えた、地域のつながりを新生する新たな地場産業モデルを創出していくことが必要です。

東北地域が、東日本大震災を乗り換えて復興していけるよう、地場に根づいた産業に光をあて、「共益投資」を通じて、新しい地域経済をリードする共益事業を支援していきます。私たち東北共益投資基金は、「共益投資」の概念で東日本大震災の被災地復興を支援する新しいタイプの基金です。

■基金のフレームワーク



1. 新たな地場産業モデル創出支援

新しい地域経済をリードする「共益事業」に積極投資し、（資本性のある資金の提供）、コミュニティ新生も視野に入れた地域活動の広がりをめざします

2. バリューアップ支援

資金の提供だけではなく、地域固有の価値を発揮できるよう、ノウハウ提供・経営支援でバリューアップを図ります

3. 二度の資金循環

「共益経済」の実現に向けて、5年をめどに地元に資本をバトンタッチ、償還された資金を次の課題へ再投資します（NPO 等への助成）